

丸山先生を訪ねして

二・C 福留初恵

五月二十八日、かねてから一
諸したいといわれていた鈴木、真
鍋医博と高橋さんとの四人、

第一伊豆で余りおしゃべりし

たとも思わぬ中に熱海着、車で少
々迷ったがお宅のすぐ側まで到
着。

お待ちかねの先生は朝から「ま
だかね」とおしゃっておられた

由、「そう早くてお掃除も間に
あいません」と奥様は笑つておら
れた。初島の眺めは何時うかが
つてもあかず、お庭には御丹精の
カーフー、ストック、マーガレット
等々美しく、部屋部屋には奥様の
活けられた山の花、庭の本草な
ど、ごみごみした東京からの来蘇
る思い。この前は先生の尊敬さ
れておられる舜の語「ヲ歎シテ
失事勿レ微ヲ行ツテ怠ル事勿レ
忠信倦ム事勿レ」を色紙にお書き
下さったが、今度は「留学を始め
ました中野先生のお手本の中から
一番好きな言葉をと云い家の助
言で『中庸』の字を書いていま
す、よければ両枚でもお持ち下さ
い」とおっしゃられて皆一枚宛頂
いて来た。

「第一伊豆」で余りおしゃべりし
たとも思わぬ中に熱海着、車で少
々迷ったがお宅のすぐ側まで到
着。

退職するにあたつて

一・D 秋山初枝



丸山先生の近影

母校在職三十五年、生徒として、まさに在職しつづけました。
通った五年を加えて通算四十年の長く間違った学校でしたが、この三月三十一日付で退職させていたしました。

母校在職三十五年、生徒として、まさに在職しつづけました。

昭和六年九月、ご病氣の先生の代り、ここで初代校長先生に採用されて勤務は始りました。

当時の女学校は家事や裁縫には相当時間かけていたので、家庭科関係の教員が十三名もおられました。専門学校を出たばかりで立

てこそだなど声をかけて下さったのに、「家庭科の教育は実践し

てこそだなど声をかけて下さったのに、先輩の諸先生方のお言葉をそ

うです。昭和二十年五月二十日

ましに、お庭には御丹精の

第六の卒業生で始めて博士とな

られた真鍋紗の處へ先生が敬意を表して御出でになられた事などは

第六の卒業生で始めて博士とな

られた真鍋紗の處へ先生が敬意を表して御出でにな